

普及活動情勢報告（令和3年10月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

今、害虫を抑えて冬を迎えよう！～十市地区シシトウ勉強会～



農薬の特徴を説明する
普及指導員

10月6日、十市地区ししとう生産者を対象とした勉強会を開催し16名が参加しました。

農業改良普及課からは、現在使用している農薬の特徴を踏まえた害虫対策時の薬剤選択方法や厳寒期のかん水管理等について周知しました。

参加者からは、「RAC コードを初めて知った」、「冬場にかん水を減らさないように意識する」といった声が聞かれました。また、会の前後には、次々と自身の栽培についての相談を受け、意欲的な姿勢が見られました。

今後も農業改良普及課は、シシトウ産地の維持・発展に向け取り組んでいきます。

ドローンによる画像データ撮影及び見学会の開催 ～ドローンの画像データ活用によるキャベツの生育・欠株診断技術の実証～



ドローン画像撮影の様子

9月24日、AIを用いた画像データ解析によるキャベツの欠株診断を行うため、ドローンによる画像データ撮影及び見学会を開催し、生産者及び関係者24名が参加しました。

キャベツのAIによる欠株判定を行うIT業者2社とドローンで画像撮影を行う業者、生産者とで、撮影高度と撮影画像の解像度について意見調整を行い、ドローンの飛行撮影を開始しました。参加者は、スムーズな撮影や画像の鮮明さに感心していました。

農業改良普及課は、今後もドローン画像データの収集を行い、関係機関と連携して、ドローン画像データのAI解析による生育・欠株診断に取り組んでいきます。

シシトウ・ピーマンをもっと消費宣伝しよう！（女性農業者の活躍促進）



動画修正への助言を行う
普及指導員

10月15日、JA南国営農経済センターにて、シシトウ、ピーマンを生産している女性農業者5名が参加し、撮影した消費宣伝用レシピ動画の確認と修正、活用について検討しました。農業改良普及課は、修正内容の確認や今後の取り組みへの助言を行いました。

女性農業者からは、シシトウのヘタの取り方、種やワタも一緒に食べられることなどPRポイントが伝わる動画となるよう修正案が出されました。

農業改良普及課では、女性農業者の取り組みが部会の消費宣伝活動にも活かされ、女性農業者の活躍の場が広がるよう支援を継続していきます。

着花の確保が最重要です ～温室みかん部会現地研修会～



園地巡回で状況を聞き取り

10月12日、13日、15日に、JA香美地区温室みかん部会が支部ごとに現地研修会を開催し、部会員延べ30名が参加しました。

参加者の園地38か所を巡回し、前作の反省点や防除履歴、樹の状態について検討しました。

農業改良普及課は、本年同様に秋期高温であった令和元年の場合に例年通り加温を開始した結果、着花が少ない園地があったことを説明しました。特に、10月下旬頃から加温を始める作型では、花芽分化を促進させる低温積算を稼ぐため、加温開始日を遅らせる必要性を説明しました。

今後、花芽の充実具合を確認するため、結果母枝の切り枝水挿しや養分分析、葉色、気象情報を参考に加温開始日を決めるよう指導していきます。

香美地区なす部会が現地検討会を開催



今後の管理に向けて
検討しあう生産者

9月28日、JA高知県香美地区なす部会の現地検討会が開催され、生産者11名が参加しました。

農業改良普及課からは、ナスフザリウム立枯病の予防と、今年高知県に侵入が確認されたフタテンミドリヒメヨコバイについて説明しました。

生産者からは、「フタテンミドリヒメヨコバイの特徴や対策はどうしたらよいか」、「ナスフザリウム立枯病の予防散布の防除間隔はどのくらいがよいか」などの質問が出ました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して、ナスの生産安定に向けて引き続き指導を行います。

高温期の生産安定に向けて ～やっこねぎ部会青年部～



播種作業の様子

農業改良普及課は、JA高知県香美地区やっこねぎ部会と、小ネギにおける高温期の生産安定技術の検討に取り組んでいます。

9月30日にやっこねぎ部会青年部8名とJA営農指導員とともに、高温期の発芽や生育を早めるための技術として、播種前の種子に3通りの水温で吸水処理し、青年部が管理するハウスに播種しました。部会員どうしで、「こうなるだろう」、「いや、こうなるぞ」と結果を予測し合い、今後の生育を楽しみにしています。

農業改良普及課は、今後調査結果をまとめて部会と共有し、引き続き、高温期の小ネギの生産安定技術の確立に取り組んでいきます。